

あなたも、うすうす気付いているかもしれないこと。

結論から言うと、あなたはリーダーについて、少し勘違いをしているのかもしれない。

あなたは数ヶ月前にリーダーになったと仮定する。

それは、突然のことだったかもしれないし、順当な流れだったかもしれない。

あなたは必死でチームをまとめようと頑張った。

しかし、思うような結果を得られずに、迷いの中にいる。

気持ちの中は、次のような思いでいっぱいのはずだ。

- なんて、部下（スタッフ）達は、言ったことを守ってくれないんだろう？
- なんて、部下（スタッフ）達は、好き勝手なことをするんだろう？
- なんて、部下（スタッフ）達は、常識を知らないんだろう？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、少し考えればわかるような問題を僕にいちいち聞くんだろう？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、自由にやって欲しいときには縮こまり、常識的にやって欲しいときに限って、自由奔放なんだろうか？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、リーダーである僕の気持ちを少しも考えてくれないんだろう？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、わかりました！と言ったすぐ後に、まったくわかっていないことをするんだろう？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、仲間同士で余計な問題を引き起こして僕に尻拭いをさせようとするんだろう？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、簡単にやめると言い出すんだろう？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、モチベーションが上がらないのは僕のせいと言わんばかりの態度で、仕事をするんだろう？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、僕の仕事の邪魔をしようとするんだろう。僕の時間を使っているという意識はあるんだろうか？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、自分のやりたいことだけをやって、それ以外のことは「苦手なんで……」の一言で免れることができると思うんだろう？

□ なんて、部下（スタッフ）達は、僕が出した良いアイデアをすぐに実行に移さないんだろう？（それについて聞いたとしても、返ってくるのは薄ら笑いだけだ）

□ なんて、部下（スタッフ）達は、プロジェクトの達成よりも、自分の評価のことを気にするのか？（プロジェクトが達成したら、評価も上がるはずなのに、それをわかろうともしない）

□ なんて、部下（スタッフ）達は、指示を出した時、返事をしてくれるだけでもいいのに、それすらサボリたがるんだろう？

チームを率いていくというのは、とても大変なことだ。

チームは人数の多い少ないに関わらず、チームを組んで仕事をする場合は、常に問題が起こる可能性をはらんでいる。

チームでの仕事とは、常識が違う人間同士が集まり、ひとつのプロジェクトを遂行

するために、気を使いながら肩を並べ、ルールをいくつも作り、力を合わせるための仕組みを作らなければ、効果が出ないデリケートなものだ。

だから、先ほど挙げたあなたの心の中にだけある叫びは、誰にも言えないだろう。

しかし、これだけは忘れないで欲しい。決してあなたのチームのメンバーが特別がままで身勝手な劣等生の集まりというわけではない。ここに書いた事柄は、

ごくごく普通のことなのだ。

最初に話を戻そう。

あなたが心の中で思い描くチームのリーダーシップとはなんだろうか？

チーム全員を叱咤激励してモチベーションを上げさせる能力？

チーム全員を引っ張って、プロジェクトを成功させる能力？

そんな能力は、この本を読んでも身に付かないから、即行この本を閉じて、今すぐ自己啓発本のコーナーに移って欲しい。

実際、人間はいつもハイテンションでいることは難しいし（なかにはそんな人間もいるが、この本は初めからそんな人間を想定して書かれていない）、あなたがやり慣れないやり方を試してみたところで、効果はもって3日だろう。

あなたが恥を忍んで、今までのリーダー論を読んで実践したこと、いわゆる

- ・ 皆の冷めた態度にも負けず
- ・ 大きな声を出して、ほがらかに笑い
- ・ 口癖は「やってやろうぜ」
- ・ 間違ったことをやった部下（スタッフ）がいたら適切なやり方で叱りに行き
- ・ どんな相談にも親身になってやり
- ・ あらゆることに自分よりもチームを優先した

右に書いたことを実行したあなたは偉いが、しかし、ここだけの話、寒かったと思う。

正直、似合わない人間がそれをやっていたら、きつとあなただって、ツツコミのひ

とつも入れたくなるだろう。しかし、リーダーにツツコミを入れてくれるくらい気が利いて、なおかつ優しい心を持った部下は数えるほどしかない。

きつとあなたは、自分が寒いことにうすうす気付いていたから、長い間、自問自答の夜を過ごしてきたことだろう。

この本を手にとったあなたは、もう一度、自分のチームのことを振り返って欲しい。きつといるんな人間がいるだろう。中には一筋縄ではいかない人間もいる。そして、通りいっぺんのやり方を試したとしても、必ずしも全員に響くとは限らないことはわかるだろう。

この本にはソフトマネジメントと言われるこれからのリーダーが取るべき行動をわかりやすく書いた。いわゆる「俺についてこい！」ということが通用しない時代に、リーダーになってしまった人に向けて書かれた新しいリーダー論である。